

米子市歴史館運営委員会（平成23年度第2回）

と き 3月27日 15時から
と ころ 米子市第2庁舎第2会議室

***** 日 程 *****

1 開会

2 あいさつ

3 委員長互選

- (1) 委員自己紹介
- (2) 選任の方法について説明
- (3) 互選
- (4) 新委員長あいさつ

4 議事

(1) 平成23年度実施事業報告について

- ① 山陰歴史館
- ② 福市考古資料館
- ③ 上淀白鳳の丘展示館

(2) 平成24年度事業計画について

- ① 山陰歴史館
- ② 福市考古資料館
- ③ 上淀白鳳の丘展示館

5 閉会

米子市立山陰歴史館

平成 23 年度事業実施報告 平成 24 年度事業計画 (案)



2012・3

米子市立山陰歴史館

平成23年度米子市立山陰歴史館自主事業報告

2011/3/9

事業名	開催日	内 容				
		区分	入場者数(人)	収入額(円)	支出額(円)	収支差額(円)
「常設展」 昔のくらし展など 鳥取県保護指定文化財記念事業 チンチン電車のあのころ ～法勝寺電車～ 共催：鳥取県教育委員会・米子市・米子市教育委員会 協力：南部町・南部町教育委員会・祐生会いの館 高木東六没後5年・第53回米子市音楽祭連携事業 ふるさとの音楽家 高木東六の軌跡 共催：米子市、米子市教育委員会 協力：高木緑・赤い靴記念文化事業団・わらべ館・米子市音楽祭実行委員会 戦争の記憶展 主催：鳥取県、米子市立山陰歴史館 共催：米子市 中村一忠と八幡神社展 ～速報～ 共催：米子市、米子市教育委員会 協力：八幡神社・米子高専 平成23年度 素鳳コレクションの展示 ひいな ～春を待つ人形たち～ 共催：米子市、米子市教育委員会 重複観覧者の人数は除く 企画展のみ	通年	米子の古代から現代までの通史を展示する。各部屋の展示を巡ることで、当時の生活の様子や産業、など人々の息吹を感じてもらおう。				
	23年度	8,805	0	208,232	△ 208,232	
	4/29(金)～5/29(日)	平成22年度、鳥取県指定保護文化財となった法勝寺電車の価値を多くの方へ知ってもらうために、法勝寺電車の写真パネルや法勝寺電車の関連資料を展示する。 [補足] 米子市美術館で5月5日(木)～6月12日(木)に開催される、安部朱美創作人形展 昭和の家族「きずな」の人形作家安部朱美氏は、1950年南部町(旧西伯町)生まれである。事業団関連施設の歴史館では、美術館と同時期開催の連携企画として、人形作家安部氏の故郷・旧西伯町の往時の一端に触れていただく機会の提供を図る。				
	23年度	[1,268]	0	146,834	△ 146,834	
	6/25(土)～7/24(日)	没後5年にあたる今年、米子市立山陰歴史館では、高木の楽譜や著書などを展示し、ふるさとを離れてからも、音楽をとおして米子の芸術文化の振興に貢献した高木の軌跡を紹介する。				
	23年度	[445]	93,300	1,028,784	△ 935,484	
	8/6(土)～8/19(金)	アジア・太平洋戦争中の鳥取県の人びとが何を思い、何を見ていたのかを紹介し、平和を築くために、戦争というものを見つめ直す機会の提供とする。				
	23年度	[861]	0	0	0	
	10/28(金)～12/4(日)	米子城の素地を築いた中村一忠の足跡や八幡神社の歴史的価値を紹介する。				
	23年度	[1,706]	0	187,650	△ 187,650	
1/29(日)～3/4(日)	素鳳コレクション2,000点余りの中から、江戸時代から大正期の多様なひな人形や飾りを中心に118点を展示して、華やかな人形の世界を紹介する。					
23年度	[1,235]	65,800	83,539	△ 17,739		
23年度	8,805	159,100	1,655,039	△ 1,495,939		
予算	[5,429]	500,000	790,000	△ 290,000		
「講演会・講座」 上淀白鳳の丘展示館リニューアルオープン記念事業 上淀廃寺の謎を究明せよ ～聴いて 見て 食べて 学ぶ 古代史～ シンポジウム 仏像はどこに消えたのか!? 主催：米子市・米子市教育委員会・上淀白鳳の丘展示館(株)白鳳の里・淀江文化センター・埋蔵文化財センター 協力：歴史館友の会 郷土の歴史教室 よなご・おおず探検隊 共催：米子錦ライオンズクラブ・米子市教育委員会 協力：歴史館友の会	10/29(土)	東西壁に背光や台座は描かれているが、その中心となる仏像が確認できない……。上淀廃寺最大の謎を解き明かす！伯耆古代の丘整備検討委員会委員長 水野正好氏の記念講演と日本有数の壁画・仏像研究者によるパネルディスカッション				
	23年度	[320]	—	—	—	
	7/2(月)・7/30・31・8/1(土・日・月)	米子城主加藤氏が米子から大洲へ国替えになった歴史を学習して、今に生きる米子と大洲の歴史の足跡を現地に出かけて学ぶ小学生対象事業。				
	23年度	81	—	—	—	
	「米子巡りウォーク」 上淀白鳳の丘展示館リニューアルオープン記念事業 上淀廃寺の謎を究明せよ ～聴いて 見て 食べて 学ぶ 古代史～ 現地探訪 上淀の秋を愉しむ 主催：米子市・米子市教育委員会・上淀白鳳の丘展示館(株)白鳳の里・淀江文化センター・埋蔵文化財センター 協力：歴史館友の会 米子城と米子の町の成り立ち 共催：児童文化センター 歴史館友の会連携事業 館長講座 山陰の武将の跡をめぐる ～尼子と毛利の合戦～	10/30(日)	上淀白鳳の展示館や周辺遺跡を解説を聞きながら散策する。			
		23年度	[43]	—	—	—
		11/20・27(日)	米子の町の成り立ちや歴史を、親子で町並みを歩きながら学習します。			
		23年度	[46]	—	—	—
	7/3(土)・10/1(土)・10/5(土)	事前学習と現地学習会				
	23年度	[45]	—	—	—	
民話の部屋 共催：ほうき民話の会	通年	地方に残る方言で語られるむかし話を楽しんでいただく。				
	23年度	66	—	—	—	

事業名	開催日	内 容					
		区分	入場者数(人)	収入額(円)	支出額(円)	収支差額(円)	
教育普及事業	学校・公民館対応など 出前講座 米子市立義方小学校4年 用水路をつくって水をひく～米川用水～ 館内体験学習・学芸員研修受け入れなど	9/22(木)					
		23年度	[84]	—	—	—	
		通年					
		23年度	[2,029]	0	10,576	△ 10,576	
	米子高専連携事業 米子まるごと文学館～知的な朝の過ごし方～ 共催：米子高専	8/11(木)					
		23年度	22	0	1,669	△ 1,669	
事業団連携事業 夏休み子どもわくわく体験ツアー	8/9(火)						
	23年度	37		24,579	△ 24,579		
	23年度	206	0	36,824	△ 36,824		
	[]は重複	予算	[534]	100,000	400,000	△ 300,000	
資料の保存・活用事業	調査・整理・研究・保管	通年					
	山陰<知>のネットワーク研究会 共催：山陰<知>のネットワーク研究会						
	鳥取県史編纂事業 古文書解読ボランティア月例会 共催：鳥取県史編纂室						
	資料貸出						
			23年度	34	0	86,703	△ 86,703
			23年度	109	0	86,703	△ 86,703
	[]は重複	予算	[7]	0	410,000	△ 410,000	
情報提供事業	「歴史館コンサート」 上淀白鳳の丘展示館リニューアルオープン記念事業 上淀廃寺の謎を究明せよ ～聴いて 見て 食べて 学ぶ 古代史～ 古代の響 主催：米子市・米子市教育委員会・上淀白鳳の丘展示館(株)白鳳の里・淀江文化センター・埋蔵文化財センター 協力：歴史館友の会	10/29(土)					
		23年度	[156]	—	—	—	
	歴史館だよりの発行 ホームページの作成・更新	通年					
		23年度	—	—	—	—	
	米子市史など問合せ対応	通年					
	友の会の運営	通年					
		23年度	[98]	0	34,816	△ 34,816	
	歴史館友の会連携事業 奥田元宗・小由女美術館見学会 (素風コレクション展示見学会)	10/4(日)					
		23年度	8	0	54,500	△ 54,500	
	歴史館友の会連携事業 館長講座 山陰の武将の跡をめぐる ～尼子と毛利の合戦～	7/3(土) 10/1(土) 10/5(土)					
	23年度	45	0	54,950	△ 54,950		
図書等販売	通年						
	23年度	—	185,099	0	185,099		
	23年度	53	185,099	144,266	40,833		
	[]は重複	予算	[254]	400,000	400,000	0	
合 計		23年度 2月末現在	9,173	344,199	1,922,832	△ 1,578,633	
		予算	目標 7,000	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	

△1,000,000円は事業団取り崩し金

平成24年度 米子市立山陰歴史館事業計画書（案）

1 基本方針

（1）個性あふれる利用しやすい施設づくり

建築物がもつ歴史的景観や価値の情報発信と、市民が集える場の提供を行いながら市民に利用してもらいやすい施設づくりを目指す。

（2）郷土の歴史・民俗資料を中心とする整理、調査研究、保管活用の充実

収集資料の体系的な整理への取り組みを行い、事業企画や情報発信に活用できるよう研究成果の積み重ねに努める。

2 重点施策

（1）山陰歴史館所蔵の資料整理及び調査研究、資料活用の推進

2年あるいは3年をひと括りとして資料整理や研究に取り組み、その成果を常設・企画展示事業に反映させながら、歴史的資料の開示や情報発信に取り組む。

（2）歴史館を活用した参加型の協働事業の推進

ほうき民話の会・米子下町観光ガイドなど諸団体と協力しながら、活動の紹介や発表の場の提供など参加型の教育・普及事業の開催を図る。

（3）利用者サービスの向上

米子市史などの問い合わせに随時対応し、郷土の歴史に係る情報の提供や情報交換の場の提供をおこなう。

平成24年度米子市立山陰歴史館自主事業計画（案）

No.1

事業名		開催日	内容
展示事業	〔常設展〕 昔のくらし展など	通年	米子の古代から現代までの通史を展示する。各部屋の展示を巡ることで、当時の生活の様子や産業、など人々の息吹を感じてもらう。
	〔企画展〕 平和展	8/6（土）～ 8/19（金）	戦争についての資料を展示し、平和の大切さを感じていただく機会とする。
	素鳳展	3月～25年4月頃	素鳳コレクションの展示
教育普及事業	碧川企救男とかた（仮称） 協力：財団法人 霞城館（兵庫県たつの市）	予定 6/3（日）～ 7/16（月・祝）	米子市にゆかりのある碧川企救男と碧川かたを取り上げ、人物紹介をおこなう。
	企画展付帯事業 碧川企救男とかた（仮称） 連携：歴史館友の会（予定）	6/9（土）	米子市にゆかりのある碧川企救男と碧川かたを取り上げ、人物紹介をおこなう企画展の付帯事業として、二人の人物像を紹介する。
	サマースクール 郷土の歴史教室 共催：米子錦ライオンズクラブ（予定）	夏休み期間中	子どもを対象として郷土の歴史を知る機会の提供をおこなう。 ① 米子の歴史の地図をつくろう（仮称） ② 米子歴史まち歩き（仮称）
	〔米子巡りウオーキング〕 米子城跡ガイドツアー 共催：米子市埋蔵文化財センター 連携：歴史館友の会（予定）	10月頃	米子城の成り立ちを学習しながら、往時の痕跡を歩いて巡る。
	民話のへや 共催：ほうき民話の会	通年	地方に残る方言で語られるむかし話を楽しんでいただく。
資料の保存・活用事業	出前講座	随時	学校や公民館などへ出かけ、郷土の歴史や民俗に関する研究成果を語ることで、郷土の歴史への知識を深める機会を提供する。
	米子高専連携事業	調整中	高専と連携をとり、楽しみながら学習できる講座を提供する
	事業団施設体験ツアー	調整中	事業団の管理・受託施設が連携を取り事業をおこなう。
資料の保存・活用事業	調査・整理・研究・保管	通年	資料の調査・整理・研究を行い、その成果を発表する。
	鳥取県史編さん事業 古文書解読ボランティア月例会 共催：鳥取県史編さん室	通年	ボランティアの協力等を得ながら、鳥取県の近世・近代の重要な古文書を解読し、その成果を「新鳥取県史資料編」へ収録する等、編さん事業に活用する。 歴史館では、古文書解読の学習をとおして人材の育成を支援し、今後、歴史館での史料解読への協力をいただける活動へ繋げる。
	資料貸出	通年	素鳳コレクションの貸出・学習資料などの貸出

	事業名	開催日	内容
情報 提供 事業	歴史館コンサート	調整中	米子市文化ホールと連携した事業として内容を検討中
	歴史館だよりの発行 ホームページの更新	通年	史・資料の紹介やイベント情報の提供などをおこなう。
	米子市史などの問合せ対応	通年	米子市史などの問い合わせに対応し、歴史情報の提供をおこなう。
	友の会の運営 <small>共催：歴史館友の会（予定）</small>	通年	郷土の歴史や民俗に興味を持つ皆さんが「集い・学びあう場」として会の運営の手助けをおこなう。
	図書等販売	通年	委託図書や企画展の図録などの図書販売を行い収入の一助とする。

米子市立山陰歴史館は、指定管理者として(財)米子市教育文化事業団が管理・運営しています

電話でのお問い合わせはTEL. (0859) 22-7161

FAX (0859) 22-7160

E-Mail : saninrekishikan@dear.ne.jp

[トップページ](#)

[館内案内](#)

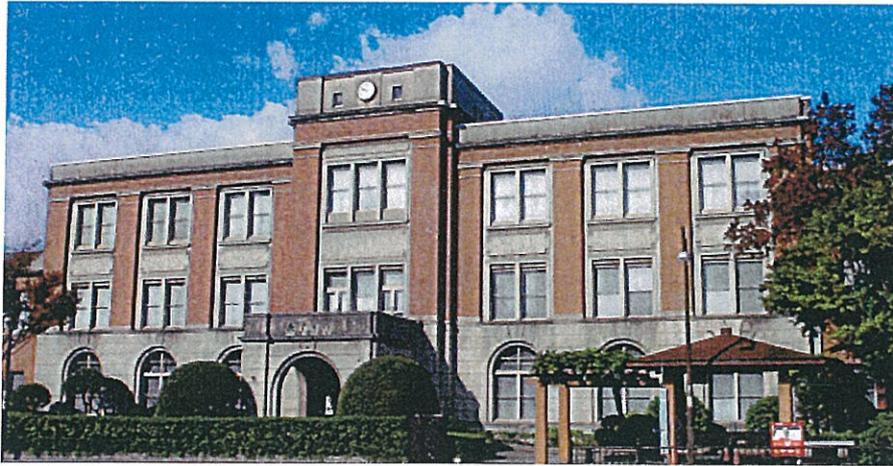
[アクセス](#)

[行事予定](#)

[お問合せ](#)

[関係リンク](#)

トップページ top page



昭和5年(1930)、米子市役所として建築された赤レンガ色のスクラッチタイルが施されたモダンな鉄筋建築。ゴシック・バロック様式を取り入れた当時としては山陰随一の近代建築でした。
昭和52年(1977)、市の有形文化財に指定されました。

米子市立山陰歴史館の成り立ち

明治34年(1901) 8月	郷土史家足立正(あだち せい)氏により、収集の考古資料を自宅の一室に陳列公開
大正13年(1924) 10月	米子市淀江町に山陰徴古館が開設、足立正氏収集の考古・歴史・民俗資料1328点を展示
昭和15年(1940) 4月	米子市の記念事業として、足立正氏収集の資料約9300点を米子市西町の商品陳列館2階に開設、昭和20年8月一時閉鎖
昭和28年(1953) 11月	武家屋敷小原家の長屋門の寄贈を受け、これを米子城二の丸に移築し活動を再開
昭和59年(1984) 12月	米子市新庁舎完成・供用に伴い、米子市旧庁舎を山陰歴史館に衣がえし、展示活動・調査・研究・資料の充実を図る

NEWS 新着情報

2012年3月6日	(財)米子市教育文化事業団 囁託・臨時職員募集のご案内 ←クリック
2012年3月5日	3月の休館日のお知らせ 6日(火)、13日(火)、22日(木)、23日(金)、27日(火)
2012年3月4日	素鳳コレクション展「ひいな～春を待つ人形たち～」終了しました。
2012年1月19日	素鳳コレクション展「ひいな～春を待つ人形たち～」詳細アップしました。
2011年12月25日	年末・年始は12月29日(木)～1月3日(火)まで休館させていただきます。 新年は1月4日(水)より開館いたします。
2011年12月20日	行事予定に「素鳳コレクション展」を追加・更新しました ←クリック
2011年12月14日	サイトをリニューアルしました



夜間のライトアップが美しい
米子市立山陰歴史館

【その他の施設のご案内】



米子市埋蔵文化財センター
埋蔵文化財保護と活用、郷土の歴史
に関する理解を深める

〒683-0011
鳥取県米子市福市281番地
TEL・FAX.(0859)26-0455
→[サイト](#)



米子市福市考古資料館
福市遺跡公園と隣接し、桜(4月)・
つつじ(5月)にはお花見も出来る

〒683-0011
鳥取県米子市福市461-20
TEL.(0859)26-3784
→[サイト](#)

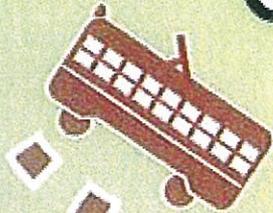


上淀白鳳の丘展示館
国内最古級、1300年前の仏教壁
画が出土した国史跡・上淀廃寺跡
のガイダンス施設

〒689-3411
鳥取県米子市淀江町福岡977番地2
TEL.(0859)56-2271
FAX.(0859)56-2271
→[サイト](#)

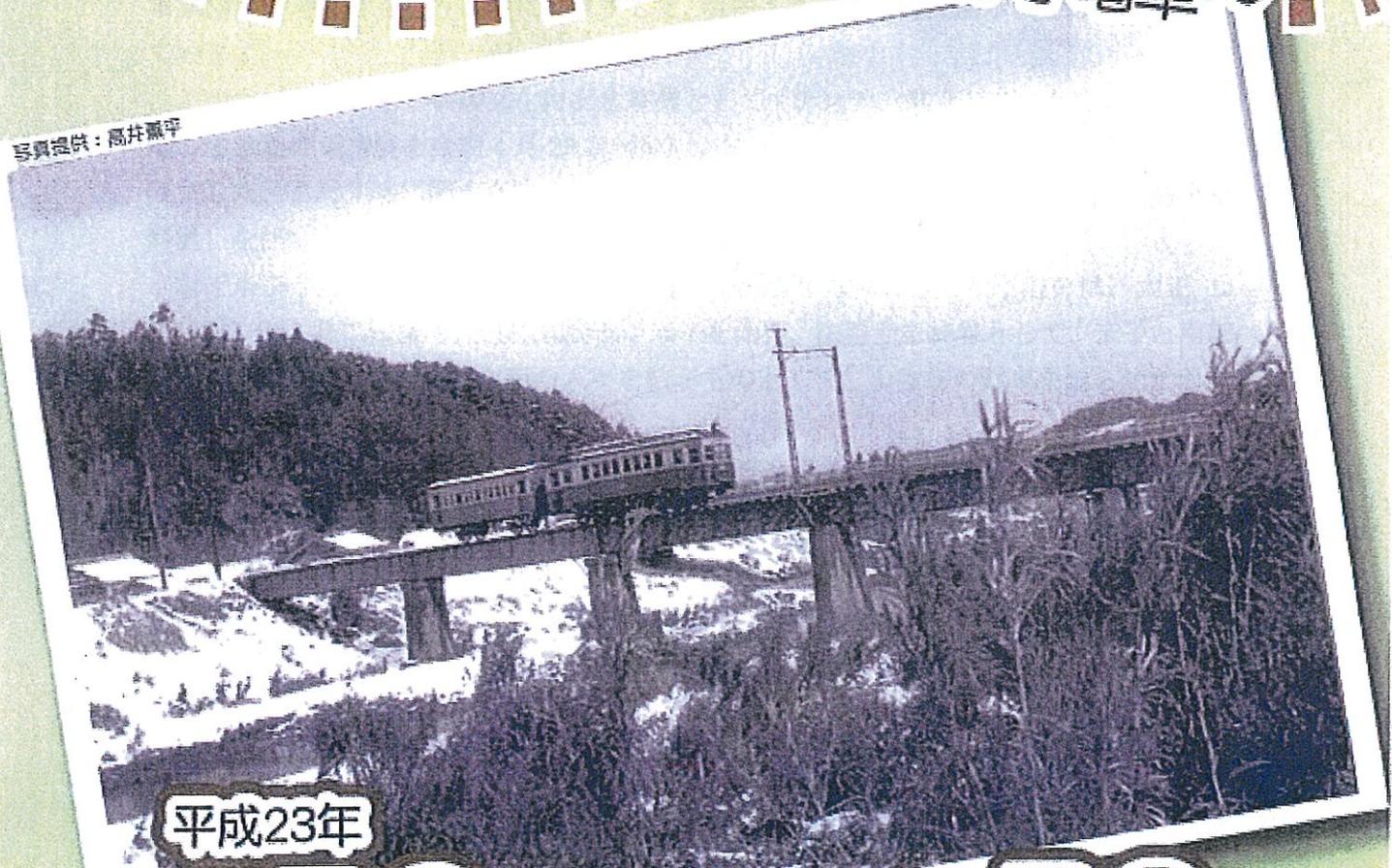
鳥取県指定保護文化財記念事業

チンチン電車の 走ったあのころ



～法勝寺電車～

写真提供：高井 誠平



平成23年

会期 **4/29(金・祝)～5/29(日)**

【会期中無休／観覧料無料】

会場 **米子市立山陰歴史館**

開館時間 **9:30～18:00**

【入館は17:30まで】

〔連携事業〕

祐生出会いの館『法勝寺電車資料展』

会期 4/29(金)～6/20(月)

お問合せ 0859-66-4755

お問合せ
米子市立山陰歴史館 0859-22-7161

主催 (財)米子市教育文化事業団(米子市立山陰歴史館)
共催 鳥取県教育委員会・米子市・米子市教育委員会
協力 南郡町・南郡町教育委員会・祐生出会いの館・日ノ丸自動車株式会社

高木東六没後5年・第53回米子市音楽祭連携事業

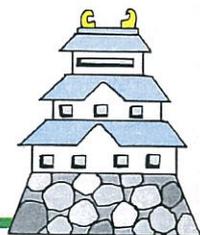
ごうぎん鳥取文化振興財団助成事業

ふるさとの音楽家

高木東六の軌跡

米子市立山陰歴史館

米子錦ライオンズクラブ助成事業
平成23年度 第38回 郷土の歴史教室



米子

大洲

よなご・おおす

歴史探検隊

の記録

日程

事前学習

平成23年
7月25日(月)

大洲

7月30日(土)~
8月1日(月)
(2泊3日)



主催：米子錦ライオンズクラブ、(財)米子市教育文化事業団 [米子市立山陰歴史館]
共催：米子市教育委員会

なかむらかずただ
中村一忠と

はちまんじんじゃ
八幡神社展

速報

平成23年

10月28日(金)～12月4日(日)

会期中無休

開館時間・午前9時半～午後6時

(入館は午後5時半まで)

会場・米子市立山陰歴史館 第一展示室

観覧料・無料



初代米子城主 中村一忠



八幡神社

主催：(財)米子市教育文化事業団 [米子市立山陰歴史館]

共催：米子市・米子市教育委員会

協力・資料提供：八幡神社・国立米子工業高等専門学校

監修・資料提供：原 豊二 (国立米子工業高等専門学校准教授)・内藤和比古 (八幡神社宮司)

平成 23 年度企画展 素鳳コレクション展

ひいな

～ 春を待つ人形たち ～



内裏雛 (明治期)

出品目録

会 期:平成 24 年 1 月 29 日 (日) ～ 3 月 4 日 (日) [毎週火曜日休館]

開館時間:午前 9 時半 ～ 午後 6 時 (入館は午後 5 時半まで)

主 催:米子市教育文化事業団 [米子市立山陰歴史館]

観 覧 料:一 般 500 (400) 円、高校・大学生 300 (200) 円

共 催:米子市、米子市教育委員会

※ () 内は前売券、15 名以上の団体及び友の会会員料金。

※ 70 歳以上の方、中学生以下の方、障がいのある方、要介護者とその介護者は無料。

◆ 会場・お問合せ先 **米子市立山陰歴史館** TEL (0859) - 22-7161
〒683-0822 鳥取県米子市中町 20 番地

—それぞれのまなざし—
大名家伝来人形

坂口真佐子・素鳳コレクション



米子市埋蔵文化財センター・
米子市福市考古資料館

平成23年度事業実施報告



2012・3

米子市埋蔵文化財センター
米子市福市考古資料館

I 米子市埋蔵文化財センター・米子市福市資料館の概要

1 米子市埋蔵文化財センター施設概要

- (1) 名 称 「米子市埋蔵文化財センター」
- (2) 設置目的 埋蔵文化財保護と活用を図り、郷土の歴史に関する理解を深め、市民の文化的向上に資するため設置する。
- (3) 設置場所 鳥取県米子市福市281番地（旧米子市立日新小学校）
- (4) 施設設備 鉄筋コンクリート造3階建 延床面積2,720㎡
展示室1室・資料閲覧室1室・書庫1室・木器保存処理室1室・写場1室
調査研究室1室・資料整理室2室・土器洗浄室1室・木器収蔵室2室
体験学習室1室・研修室1室・調査資料保管室1室・特別収蔵室1室
出土品収蔵室10室
- (5) 設置年月日 平成22年4月15日
- (6) 開館日及び閉館日並びに開館時間
開館日 月曜日～金曜日 開館時間 午前9時～午後5時
閉館日 土、日、祝日及び年末年始の休日



2 福市考古資料館施設概要

- (1) 名 称 「米子市福市考古資料館」
- (2) 設置目的 郷土の歴史に関する市民の知識及び教養の向上に資するため設置。
- (3) 設置場所 鳥取県米子市福市461番地-20
- (4) 施設設備 鉄筋コンクリート造1階建 延床面積㎡
展示室1室・研修室1室・事務室1室 外倉庫1室
- (5) 設置年月日 昭和55年10月6日
- (6) 開館日及び閉館日並びに開館時間
開館日 水曜日～月曜日
開館時間 午前9時～午後5時
閉館日 火、祝日の翌日及び年末年始の休日



3 管理組織

(1) 指定管理者 財団法人米子市教育文化事業団

(2) 職員配置

米子市埋蔵文化財センター

館長 1名 学芸員 1名 (他に施設内に財団法人米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室職員 4名 事務員 1名)

米子市福市考古資料館

館長 1名 (兼務) 学芸員 1名 (兼務) 受付管理 2名

在職者名簿

米子市埋蔵文化財センター		米子市福市考古資料館	
館長	小原貴樹 (非常勤)	館長	小原貴樹 (非常勤)
学芸員	佐伯純也 (調査員兼務)	学芸員	高橋浩樹 (調査員兼務)
学芸補助	平木裕子 (調査員兼務)	受付・管理	遠藤 稔 (臨時職員)
学芸補助	濱野浩美 (調査員兼務)	受付・管理	門脇 威 (臨時職員)
事務補助	田中昌子 (非常勤)		

4 平成 23 年度 埋蔵文化財センター・福市考古資料館 事業計画

(1) 基本方針

- ① 埋蔵文化財の出土品や記録の適切な収蔵保管に努める。
- ② 埋蔵文化財の整理・記録研究・報告書の作成などの調査研究を行う。
- ③ 埋蔵文化財資料を体系的に管理し、その成果を展示事業や教育普及活動などに活用できるよう努める。
- ④ 米子の古代史を理解するための考古資料等を展示するとともに、学習等に活用できる施設管理を目指す。
- ⑤ 古代学習、出前講座など教育普及活動に取り組み、学校、公民館等の歴史学習活動を支援する。

(2) 重点施策

①原始・古代史を学ぶ機会の提供

ア 常設展・企画展を企画・開催し、米子市等の考古資料を展示し、また考古学講座の実施によって原始・古代への関心を高める。

イ 米子の歴史を再認識してもらうため、ガイドツアー・探訪ツアーを実施する。

ウ 体験教室・出前講座をとおして、「見て」「触れて」「作って」古代への興味・関心を高める。

②埋蔵文化財資料の整理・保管研究

米子市の埋蔵文化財の出土品や記録の適切な収蔵保管を行い、良好な状態で次世代に継承するとともに、広く活用できるように努める。

③情報の発信

発掘調査や研究の成果をふまえ、米子市の古代史の最新情報を発信する。

④連携事業の促進

より多くの人に興味・関心を持ってもらうために、事業団の各施設をはじめ、歴史関係施設との連携事業を展開する。

(4) 主要事業

	事業名	目的・内容	実施時期・回数
展 示	常設展示 「米子の原始・古代」 (福市考古資料館)	米子の原始古代遺跡から出土した代表的な考古資料を展示し、原始・古代の姿の理解を深める。	通年
	企画展示 「発掘調査速報展」 (福市考古資料館)	最近、発掘調査された遺跡について、その出土品や写真を展示し、遺跡調査成果を速報する。	年1回 5月
	常設展示 「米子の遺跡と発掘調査」 (埋蔵センター)	遺跡や出土品を通して、米子の遺跡や発掘調査の理解を深める。	通年
教 育 普 及	福市・青木遺跡 ガイドツアー	隣接する史跡福市・青木遺跡をセンターでスライドや遺物で学習した後、現地をガイドしながら見学をする。	年2回(春・秋)
	市内遺跡探訪ツアー	市内外の遺跡を地域ごとに、徒歩で探訪する。「淀江上淀周辺」	年1回 秋
	発掘調査見学ツアー	発掘調査中の遺跡を調査員の説明を受け、生の遺跡調査の状況を見学する。	年1回 調査時
	石塔探訪ツアー	五輪塔や道標、常火灯、回国塔などの石塔を探訪して歩く。(旧市街地)	年1回 11月
	考古学講座 「米子の原始古代」	旧石器～平安時代までの米子の歴史を考古資料に触れながら学習する。「旧石器・縄文」「弥生」「古墳」「奈良平安」	年4回 5、7、9、 11月
	出土品整理体験教室	発掘の出土品の整理作業を体験する。土器について学習し、土器の記名、接合、拓本、実測など体験する。	年1回 1月
	勾玉・石包丁・土笛づくり (福市考古資料館)	勾玉づくり等を希望する福市考古資料館来館者に体験学習をしてもらう。	随時
調 査 研 究	資料の調査・研究、 整理、点検。	収蔵されている資料や、寄贈された考古資料を調査・研究、整理・点検し成果をまとめる。	通年

情報発信	「米子市埋蔵文化財センターたより」の発刊	発掘調査の情報、貴重な収蔵品の紹介やセンター・資料館行事等の情報提供を行う。	6・9 12・3月
	施設情報の提供	事業団ネットでの行事等の施設情報の提供を行う。	通年
連携事業	事業団施設体験ツアー	事業団管理施設の解説と特色のある事業体験を行う。	7月

II 平成23年度の事業概要

1 展示業務

(1) 埋蔵文化財センター常設展示

内容 「米子の遺跡と発掘調査」のテーマで常設展示を行った。

期間 平成23年4月1日～通年
観覧者 (422人)

(2) 福市考古資料館常設展示

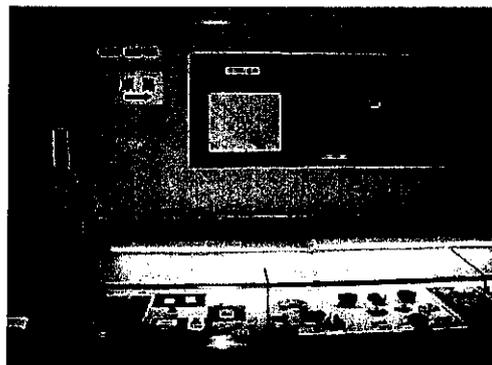
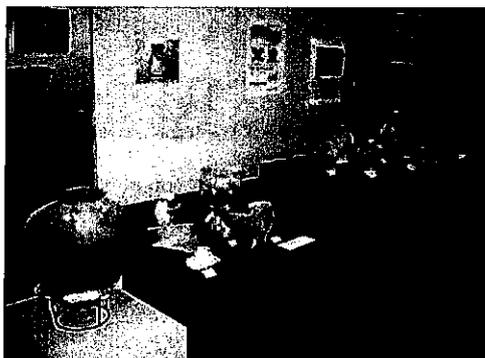
内容 「米子の原始・古代」のテーマで常設展示を行った。

期間 平成23年4月1日～通年
観覧者 (1044人)

(3) 福市考古資料館企画展示

内容 「発掘調査速報展」のテーマで最近の発掘資料の展示を行った。

期間 平成23年6月22日～7月25日
担当者 高橋浩樹 観覧者 (250人)



2 普及業務

(1) 史跡福市遺跡・青木遺跡ガイドツアー

内 容 センター研修室で遺跡概要について調査と出土品の解説を行った後、現地をガイドした。担当者 小原貴樹 福市遺跡ガイドツアー 実施日 5月15日
青木遺跡ガイドツアー 実施日 10月23日 参加者 (21人)



(2) 市内遺跡探訪ツアー

内 容 探訪ツアー「上淀の秋を愉しむ」をテーマに、上淀廃寺跡、石馬、向山古墳群を巡るガイドツアーを白鳳の丘展示館との共催事業で実施。

場 所 米子市福岡 上淀周辺遺跡

実施日 10月30日 参加者 (43人)

担当者 平木裕子



(3) 発掘調査見学会

内 容 発掘調査中の境矢石遺跡の現地説明会として実施した。

場 所 南部町境の境矢石遺跡の現地。

実施日 6月18日 参加者 (108人)

担当者 高橋浩樹



(4) 石造物探訪ツアー

内 容 米子城跡周辺の石造物の探訪ガイドを実施した。

場 所 米子市西町周辺

実施日 11月5日 (土) 参加者 (6人)

担当者 濱野浩美



(5) 出土品整理体験教室

内 容 拓本作業体験を行い、須
恵器や瓦の拓本採取を実
施した。

場 所 米子市埋蔵文化財センター

実施日 1月15日(日)

担当者 佐伯純也 参加者(4人)



(6) 考古学講座 担当者 小原貴樹

内 容 米子市内の遺跡や出土品をもと
に各時代を解説する講座を実施。

「旧石器・縄文、弥生、古墳、奈良時代のよなご」

場 所 米子市埋蔵文化財センター

実施日 1回5月29日(日) 2回7月3日(日)

3回9月11日(日) 4回11月13日(日)

参加者(54人)



(7) 勾玉作り等古代体験学習

内 容 事業団連携事業夏休みこどもワクワク
体験ツアーで勾玉づくり体験を小学4、
5年生を対象にして、実施した。

場 所 米子市埋蔵文化財センター

実施日 7月22日(金) 担当者 佐伯純也

参加者(23人)



(8) 出前講座

内 容 勾玉づくり・火起こし・弓矢体験を
尚徳なかよし学級へ出前講座した。

場 所 米子市尚徳小学校なかよし学級

実施日 8月8日(月) 参加者(35人)

担当者 下高瑞哉 福田

門脇 威 小原貴樹



3 情報発信業務

(1) 埋蔵文化財センターたよりの発刊

発掘調査の情報や米子の遺跡紹介、代表的な遺跡・遺物の紹介を年4回
の発行を行った。

(2) 埋蔵文化財センター・福市考古資料館ホームページの作成

施設情報や行事情報、米子市とその周辺の遺跡紹介をインターネット
ホームページに掲載し情報発信した。

4 調査研究・整理・収蔵保管業務

(1) 調査研究

調査研究は歴史館や研究団体等から持ち来られた資料について、その出所や性格等について検討を実施した。

(2) 整理作業

米子市から緊急雇用事業「文化財資料整理事業」受託して文化財資料の整理を実施した。緊急雇用者は年間で2名。

①遺物の整理及び収納保管

過去に寄贈された山陰歴史館保管考古遺物や佐々木謙コレクション等の遺物を整理し収納保管した。

②図面の整理

発掘調査図面の整理・点検を行い、遺跡毎にファイルに収納し、図面番号を付して図面目録を作成した。

③写真のデジタル化

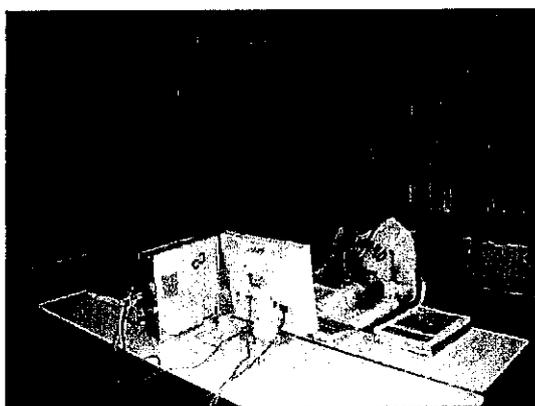
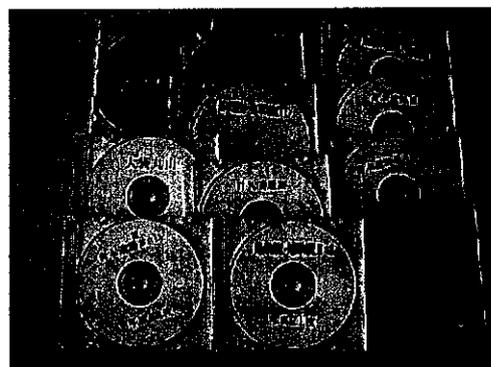
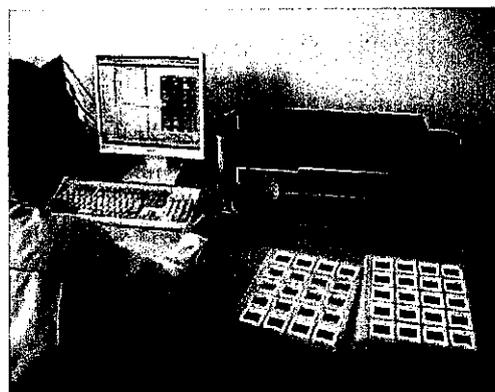
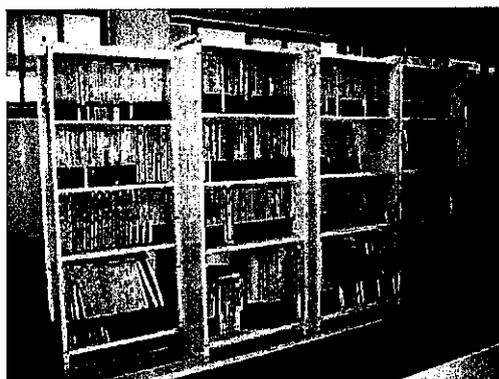
センターで保管している写真類（スライド・白黒ネガ・カラーネガ）をデジタルデータ化するとともに、CDに焼付け一覧台帳ファイルを作成した。また劣化しているものについて色修復を行った。

23年度デジタル化枚数約18万枚

④図書整理保管

送付や寄贈された報告書や図書について台帳を作成し、図書室並びに研修室に整理保管した。

平成23年度末現在の報告書・図書総数は約3万冊である。



5 センター利用実績

(1) 施設見学

永江老人会、永江公民館、よなご宝 88 が施設見学で来訪された。

(2) 施設利用

① 学校連携

尚徳小学校 3 年生の古代学習を受け入れ、原始古代の遺物に直接触れ、また福市遺跡の現地学習を実施した。

実施日 6月24日(金) 参加者(60人)

担当者 下高瑞哉 佐伯純也



② 研究会・講座利用

研修室は、施設見学者へのガイダンスや考古学の研究会会場や講座会場として利用された。(西伯耆弥生集落検討会、山陰中世土器検討会など)

③ 設備利用

労働安全衛生研修による研修室利用、(財)鳥取県教育文化財団等による「写場」の利用があった。

④ 職場体験

南部中学校生徒の社会体験で、埋蔵文化財の整理作業を職場体験として受け入れた。(南部中学校生徒3名)

⑤ 学習等利用

夏休み課題研究、地域史研究等

(3) 資料利用

(1) 土器等収蔵品の貸出利用

因幡万葉歴史館、出雲弥生の森博物館、上淀白鳳の丘展示館等

(2) 土器等収蔵品実見・熟覧等の研究利用

卒論研究大学生、大学教授、各教育委員会職員等

(3) 写真等資料の貸出利用

永江公民館

(4) 図書の間覧・貸出利用

間覧 7件 貸出193冊

平成23年度米子市埋蔵文化財センター・福市考古資料館利用実績一覧

2012.2 月末現在

事業名	日時	人数	件数	内 容
福市資料館常設展示	通年	1,044	1	米子の原始古代遺跡の展示
福市資料館企画展示	6/22～7/25	250	1	発掘速報 陰田第3、境矢石遺跡
埋蔵文化財センター展示	通年	422	1	米子の遺跡と発掘調査
史跡福市・青木遺跡ガイド	5/15・10/23	21	2	発掘資料解説と現地ガイド
市内遺跡探訪ツアー	10/30・	43	1	淀江上淀周辺 白鳳展示館連携
発掘調査見学会	6/18・	108	1	境矢石遺跡
石造物探訪ツアー	11/5・	6	1	西町周辺 荒天
出土品整理体験教室	1/15・	4	1	拓本作業体験
考古学講座	5/29 ほか3回	54	4	旧石器縄文・弥生・古墳・奈良
古代体験教室	7/22・	23	1	事業団夏休みワクワク体験
出前講座	8/8・	35	1	尚徳なかよし学級
施設見学	4/7・8/27	43	3	永江老人会・宝88選
学校連携古代学習	6/24・	60	1	尚徳小3年生
研究会利用	5/14 ほか	102	3	西伯耆弥生研・木器研・中世土器研
設備利用	7/25・2/2 ほか	56	5	安全講習、写真場
職場体験	7/4・	3	1	南部中2年生 整理体験
学習利用	8/23 ほか	7	3	夏休み課題研究ほか
出土品貸出利用	9/10 ほか		4	縄文土器、文字土器、ハニワ、木器
出土品実見等研究利用	7/28 ほか		11	学生卒論、大学教授ほか
写真資料等貸出利用	11/9・		1	青木遺跡写真データ
図書閲覧	6/7 ほか		7	報告書等
図書貸出	4/26 ほか		20	193冊
計		2,281	74	

平成 24 年度 埋蔵文化財センター・福市考古資料館 事業計画

1 基本方針

- (1) 埋蔵文化財センターとして基本になる機能の充実に努める。
- (2) 利用しやすい福市資料館と埋蔵文化財センターとして管理に努める。
- (3) 立地環境を活かした福市資料館・埋蔵文化財センターの管理に努める。
- (4) 情報発信とネットワーク化の推進に努める。

2 重点施策

(1) 原始・古代史・考古学を学ぶ機会の提供

- ① 米子市が整備を計画している米子城跡の企画展を開催し、発掘した資料を展示し、またガイドツアー・体験教室・考古学講座の実施によって米子城跡への関心を高め、中心市街地の活性化にも寄与する。
- ② 常設展・企画展を開催し、米子市等の考古資料を展示し、また見学ツアーの実施によって原始・古代史・考古学への関心を高める。
- ③ 体験教室・出前講座をとおして、「見て」「触れて」「作って」古代への興味・関心を高める。

(2) 埋蔵文化財資料の整理・保管研究

米子市の埋蔵文化財の出土品や記録の適切な収蔵保管を行い、良好な状態で次世代に継承するとともに、広く活用できるように努める。

(3) 情報の発信

発掘調査や研究の成果をふまえ、米子市の古代史の最新情報を発信する。

(4) 連携事業の促進

より多くの人に興味・関心を持ってもらうために、事業団の各施設をはじめ、歴史関係施設との連携事業を展開する。

平成 24 年度 福市・埋蔵センター自主事業計画

自主事業名	場所	時期・回数	概要	実施日
常設展示(福市資料館)	福市資料館	通年	米子の考古資料を展示	4/1~3/31

企画展「発掘調査速報展」	福市資料館	年1回	遺跡調査成果を速報する。	7/25～8/27
常設展示(埋蔵センター)	埋蔵センタ	通年	発掘調査の理解を深める。	4/1～3/31
企画展「発掘が語る米子城」	(歴史館)	年1回	米子城跡の発掘調査成果を展示する。	9/28～11/25
講座発掘が語る米子城跡	(歴史館)	年2回	米子城に関する講演会。	10月13日(土)
	(歴史館)		米子城跡発掘成果の講座。	9月30日
米子城出土品学習教室	(歴史館)	年1回	陶磁器等を学習する	10月20日
米子城跡ガイドツアー (城跡コース)	(米子城跡)	年2回	米子城跡現地ガイド。	5月13日(日)
	黒坂城ほか		他の城ガイドバスツアー	10/21(28)
米子城跡ガイドツアー (城下町コース)	(旧市内)	年3回	現地ガイド。祇園町方面	6/17(日)
	(旧市内)		寺町方面	9/2(日)
	(旧市内)		博労町・勝田方面	11/11(日)
発掘調査見学ツアー(境)	埋蔵センター	年1回 境遺跡	遺跡調査成果を見学する。	現地説明会日
勾玉・石包丁・土笛づくり	福市資料館	随時	資料館来館者の希望学習	随時
出前講座	出前先	随時	学校・公民館へ講座等の出前	随時
資料整理・研究	埋蔵センタ	通年	収蔵資料、調査・研究	4/1～3/31
センターたより発行	埋蔵センタ	年4回	発掘調査情報、収蔵品の紹介、行事等の情報提供を行う。	6 9 12 3月末
施設情報提供	埋蔵センタ	通年	事業団ネットでの行事等の施設情報の提供	随時

福市丘陵・青木遺跡と隣接し、2012年7月25日(水)～8月27日(月)の期間特別におもてなしします

米子市福市考古資料館

福市丘陵(標高25m)にある弥生時代後期～古墳時代中期にかけての村落群と古墳群跡、村全体がそのままのかたちで発掘されるのは全国的にも珍しく昭和43年に国の史跡として指定され保存されました。



(財)米子市教育文化事業団が管理・運営しています

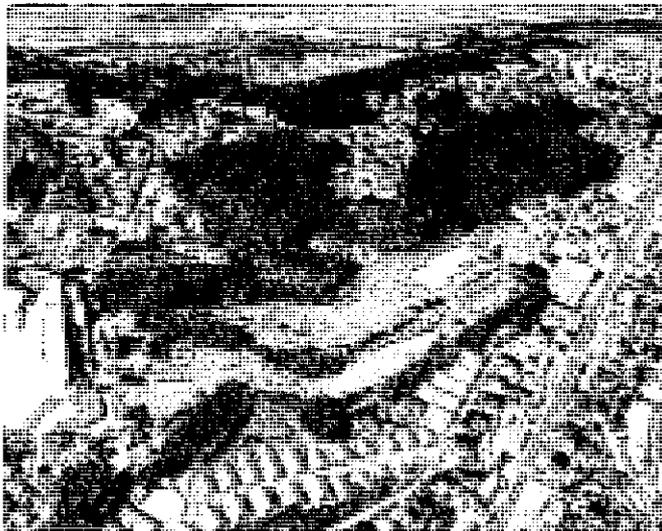
[トップ](#) | [館内案内](#) | [アクセス](#) | [リンク](#)

なだらかな福市丘陵(標高25m)にある弥生時代後期～古墳時代中期にかけての村落群と古墳群跡、村全体がそのままのかたちで発掘されるのは全国的にも珍しく昭和43年に国の史跡として指定され保存されました。

「福市遺跡公園」の入り口に位置する当館は福市遺跡・青木遺跡をはじめとし、米子市内の数々の遺跡群から出土した遺物を展示しております。

隣接する2つの遺跡：[国史跡福市遺跡](#) (1970年国指) 39,414㎡、[国史跡青木遺跡](#) (1978年国指) 40,743㎡

遺跡の名前をクリックすると説明を表示(PDFファイル)、画像をクリックすると大きな画像を表示します。



福市遺跡

福市丘陵(標高25m)は、日野川と法勝寺川の合流点に突出するなだらかな丘陵となっていますが、この丘陵の全面に遺跡が分布することは古くから知られていました。



青木遺跡

昭和46年から52年にかけて行われた調査では、8支陵、40haの調査区域の全面から遺跡が発掘され、青木遺跡は西日本では最大級の規模を持つ丘陵性集落(集落と墳墓群)として注目されました。

お知らせ news

- 2012年3月1日 企画展示「発掘調査速報展」のお知らせ 開催期間：2012年7月25(水)～8月27日(月)
最近、発掘調査された遺跡について、その出土品や写真を展示し、遺跡調査結果を速報します。
- 2012年1月16日 「拓本作業体験」講座、実施しました ←クリック (米子市埋蔵文化財センターのサイト)
- 2012年1月12日 福市遺跡公園に雪が積もりました。現在5cmくらいでしょうか?! (写真、クリックで拡大します)



トップページ

施設概要

行事予定

利用案内

常設展示

所蔵品

センターたより

販売書籍

お問合せ

関係リンク

遺跡紹介



米子市埋蔵文化財センターは、平成21年4月に日新小学校跡地に設置されました。
このホームページは、(財)米子市教育文化事業団、埋蔵文化財調査室が作成・管理しています。

NEWS 新着情報

調査員・調査補助員(嘱託)職員募集のお知らせ

- 調査員(嘱託)・1人・埋蔵文化財調査室に勤務し、埋蔵文化財の発掘調査および保存活用等業務に従事(大学または大学院で考古学、歴史学等専攻、卒業・修了の方)
- 調査補助員(嘱託)・2人・埋蔵文化財調査室に勤務し、調査員の補助業務に従事(埋蔵文化財発掘調査の経験を有する方)

詳しくは(財)米子市教育文化事業団ホームページをご覧ください ←クリック

2012年3月1日 行事予定ページを追加・更新しました。

拓本作業体験行いました

和気あいあいとした雰囲気の中、皆さん初めてながら、丁寧な作業で、綺麗に仕上がりました。参加下さった皆様ありがとうございました。



2012年1月10日 遺跡紹介ページをリニューアルしました。(鳥取藩台場跡・淀江台場跡を追加)

2011年12月25日 年末・年始は12月29日(木)~1月3日(火)まで休館させていただきます。
新年は1月4日(水)より開館いたします。

2011年12月20日 米子市埋蔵文化財センターたより、第3号をアップしました

2011年12月14日 「拓本作業体験」参加者募集のお知らせ ←クリック 1月13日締め切らせていただきました

2011年12月14日 サイトをオープンしました



米子市埋蔵文化財センター

〒683-0011
鳥取県米子市福市281番地
TEL・FAX(0859)26-0455
→アクセス
→お問い合わせ

【その他の施設ご案内】

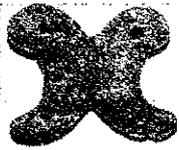


米子市立山陰歴史館
〒683-0822
鳥取県米子市中町20
TEL (0859) 22-7161
FAX (0859) 22-7160

→サイトへ



▲ RETURN TO TOP



米子市埋蔵文化財センターたより

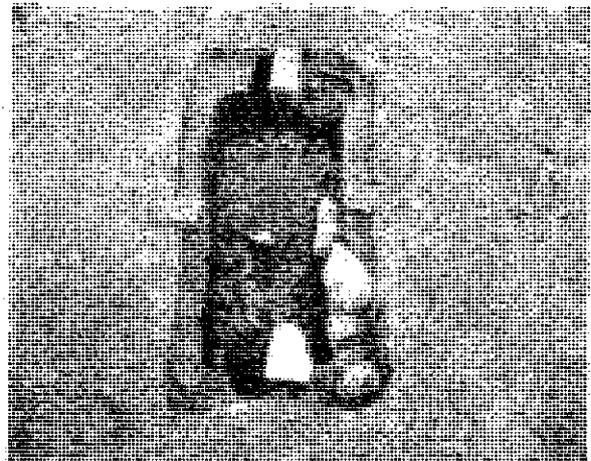
第1号

2011年6月

5区から弥生時代の墳墓を発見！ —南部町境矢石遺跡—



5区 (石囲いの墓)



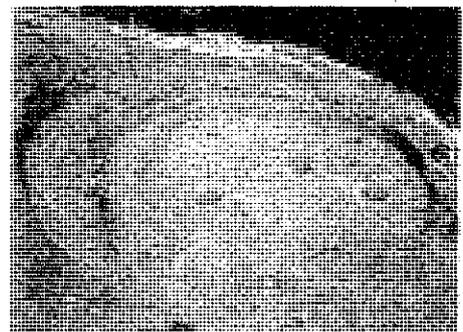
5区 (木棺墓)

境矢石遺跡(さかいやしいせき)は、西伯郡南部町境に所在する弥生時代から奈良時代の集落と墳墓の遺跡です。平成22年3月から国道180号線バイパス(南部バイパス)の建設工事に伴う発掘調査として行っており、今年度も継続して調査を実施しています。

遺跡は、法勝寺川中流域の左岸にあり、標高28~51mの丘陵上と裾部に位置しており、調査は区域を6区に分けて行い、今年度は4~6区を対象として行っています。

4区 丘陵頂部と斜面に位置し、丘陵の斜面から弥生時代後期~古墳時代中期の竪穴住居跡5棟、段状遺構20基、貯蔵穴3基を確認しました。また丘陵下部では奈良時代の段状遺構を調査中です。出土品は、弥生式土器、土師器などの土器が主な物ですが、貯蔵穴からヒスイの勾玉が検出され注目されます。また、奈良時代の段状遺構から土馬が出土しました。

5区 丘陵先端部の裾に位置し、弥生時代前期~中期の木棺墓33基、弥生時代後期の竪穴住居跡1棟、古墳時代中期の竪穴住居跡1棟、古墳時代後期~奈良時代の掘立柱建物2棟が確認されました。木棺墓の内、側板を固定する石が据え付けられたものが8基、また石囲いをされた墓塚が1基確認されています。木棺墓内から副葬品は発見されませんでした。(高橋)



4区 (竪穴住居跡と貯蔵穴)

発掘調査情報

伯楽塚遺跡(ばくろうづかいせき)―伯耆町坂長―

伯楽塚遺跡は、越敷山(標高 226m)の北麓、伯耆町坂長の標高 90m 前後の丘陵地に位置しています。昨年度末から国道 181 号線バイパスの建設工事に伴う発掘調査を実施しており、今年度も継続して 4 月から 10 月の期間で現地調査を行う予定です。

昨年度から調査を行っている谷部からは、縄文時代の落とし穴 2 基を確認したほか、縄文時代早期(今から約 8,000 年前)の押型文土器が出土しました。越敷山周辺の遺跡では、縄文時代早期の土器が出土する事例がまれにあることから、当時この周辺で狩猟・採集活動が行われていたのでしょうか。丘陵の尾根部では、土塁状に盛り上げられた遺構と、堀のような遺構が複数存在することが判明したため、ラジコンヘリによる空中写真撮影と測量作業を行い、調査記録を作成します。また、この土塁の中には小形の石棺が含まれていることから、古墳の墳丘をそのまま利用して土塁が造られているものと考えられます。

恐らく、調査区の北側に点在している伯楽塚古墳群と同一の古墳が、この調査区内にも存在することを示しているようです。また、土塁の造られた年代については、調査途中のため分かりませんが、中世末の戦国期に築かれたものか、あるいは昭和 20 年に越敷山一帯で行われた本土決戦用の陣地構築、いわゆる「チ号演習」によって造られた塹壕跡の可能性も考えられることから、これから更に調査を進めていきます。(佐伯)



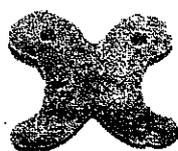
土塁状(塹壕状)遺構

整理室だより

境矢石遺跡の整理 整理室では現在、境矢石遺跡から出土した遺物の整理作業を行っております。4 区・5 区からは弥生時代から古代にかけての遺物が出土しました。酸性の強い丘陵部の土や粘性の強い低地の土の中に長い間眠っていた土器は非常に脆く、中には土と同化してしまっているものもあります。このため、洗浄後、補強材に浸けた後に細かい破片を一つ一つ接合していくことは大変根気のいる作業になります。そうした作業の結果、往時の姿に復元された土器は実測作業に回され、報告書に掲載されていきます。(濱野)



接合作業風景



米子市埋蔵文化財センターたより

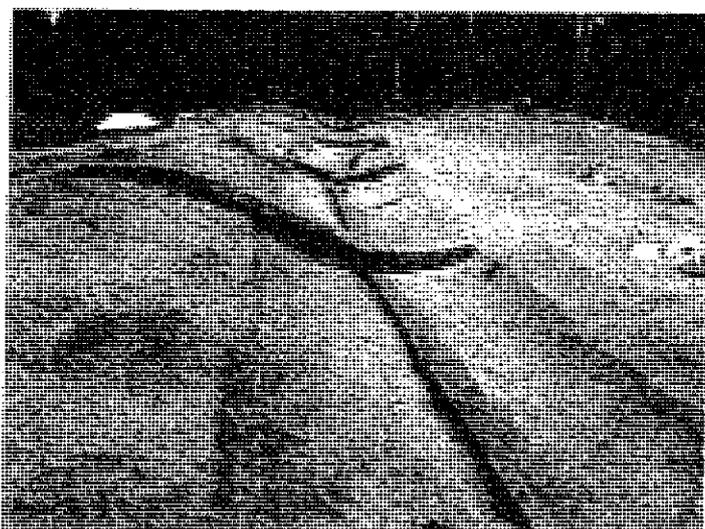
第2号

2011年9月

溝状遺構は「千号演習」塹壕跡か、道路か! —伯耆町伯楽塚遺跡—

3月から調査を開始した伯楽塚遺跡の発掘調査も、いよいよ大詰めを迎えつつあります。遺跡の中心となる丘陵尾根部の調査では、古墳時代の円墳3基と石棺6基を確認し調査地点が伯楽塚古墳群に連なる墓域として使用されていたことが判明しました。

しかし、これらの遺構群は、尾根の中心部に構築された大規模な溝状遺構によって削平されており、現状はかなり改変を受けていることが明らかとなりました。この溝状の遺構は、検出した長さ50m、幅4m、深さ0.5m程度あり、溝の底面には凸凹状に掘り込まれた遺構が存在しています。こ



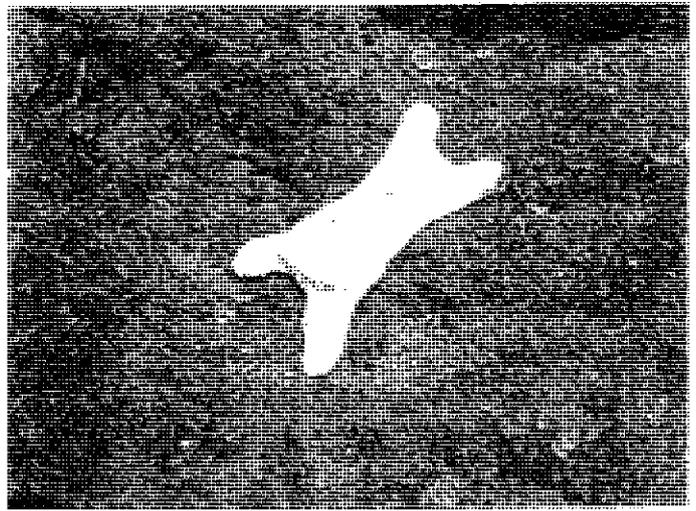
発見された道路状遺構

れまでの研究では、こうした遺構は道路状遺構として報告される事例が多く、米子市内でも「橋本徳道西遺跡」で同様に凸凹のある遺構が確認されており、道路であろうとの見解が示されています。今回確認した遺構は、底面が砂と粘土で叩き締められたように硬くなっており、基礎となる部分を入念に整備していた様子が窺えますが、実際に道路として使用したようなへこみや風化した痕跡が見られないことから、使用時の状況を窺うことができません。また、丘陵の西側では幅6m、深さ2.5mの大型の溝を確認しました。この遺構は太平洋戦争末期に計画された本土防衛計画、いわゆる「千号演習」に関連する塹壕跡と考えています。同様の遺構は高知県南国市の向山遺跡でも確認されており、「交通壕」と呼ばれる陣地と陣地をつなぐ通路として使用されていたようです。

現在、遺構の性格について様々な角度から検討していますが、造られた時期がはっきりしないことから、「千号演習」に伴う道路遺構なのか、あるいは古い時代の遺構なのか、明確な答えを見つけ出せない状況です。しかし、伯耆町内でこれだけ大規模な工事が行われた事実は、歴史的に見て近世の「佐野川用水」の工事と「千号演習」に伴う防衛陣地の構築以外に考えにくく、現状では後者の可能性がより高いように思えます。とはいえ、道路下面を凸凹状に掘削する施工技術は、現代の道路工法ではほとんど使われず、はたしてこの技法が昭和20年代にまで存続していたものか疑問が残ります。今後は、地元の方々や「千号演習」に参加した方の聞き取り調査なども実施して、この遺構の性格を明らかにしたいと考えています。(佐伯)

発掘調査情報

境矢石遺跡では、丘陵東側（4・5区）の調査が終了し、現在は南側斜面部（6区）の調査を行っています。今までの調査結果、調査地では弥生時代前期から中期のまで丘陵裾部に木棺墓群が形成されていること、弥生時代後期から古墳時代前期になると、丘陵頂部付近に段状の平場を造成して集落が形成されること、古墳時代中期以降集落は丘陵低位に設けられるようになること、奈良時代には斜面裾部を段状に削平したテラスに廃滓場などの作業空間が設けられることなどが解



X形の異形石器

ってきました。出土遺物では、弥生式土器、土師器、須恵器等の他、特異なものとしてX形の石器が出土しました。長さ5cm、幅3.8cm、厚さ0.7cm、重さは7.3gと小型のものです。この形の石器は島根県の神原Ⅱ遺跡などで出土しており、縄文時代の石器と考えられていますが、その性格、用途についてはよくわかっておりません。今回出土した石器は丘陵裾部の古代の遺構の上面から出土しており、丘陵上から混じり込んだ可能性が考えられます。

調査は来年3月まで行われ、調査予定地では既に横穴墓などが存在することも分かってきました。今後の調査により、遺跡地の歴史的様相がより一層明らかになることが期待されます。（濱野）

整理室だより

境矢石遺跡の整理から

境矢石遺跡の整理作業は、現在、昨年度調査を行った2区の実測と3区の接合を行っています。

2区と3区からは弥生時代から中世の遺物がたくさん出土しています。なかでも、弥生時代前期後葉から中期中葉の列状に配置された土坑状の溝の中から、ほぼ完全な形をした土器が出土し復元されました。これらの土器は墓の埋葬儀礼に関わるものと推測されますが、出土した遺構とともに謎が多く、その性格の解明に向けて、今後さらに検討していきたいと思えます。（高橋）



2・3区の溝の中から出土した土器

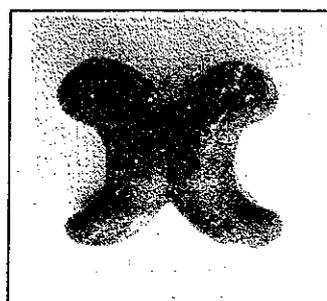


博労町遺跡は、米子工業高等学校の校舎建替えのために調査された遺跡です。

調査の結果、一時的に空白の時期はありますが、この地では弥生時代の終わりごろから、現代までの人々の営みがあったことがわかりました。

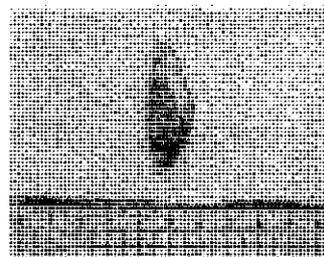
特に大きな成果としては、弥生時代の終末から古墳時代の初めのころの集落跡、奈良・平安時代の官衙関連の遺構、中世の畠跡（写真1）が確認されたことです。

また遺物もコンテナ 1,200 箱と多量に出土しました。珍しいものでは写真のような背中合わせの勾玉も出土しました。（平木）

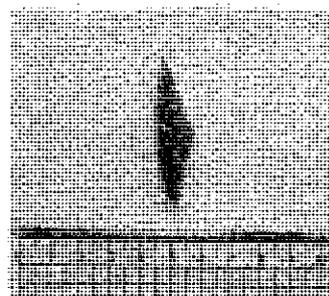


コラム—米子市内の旧石器を掘る—

平成 16 年度に調査した諏訪西山ノ後遺跡で、古墳の周溝埋没土からナイフ形石器が 1 点出土しました。一般的に旧石器時代の遺物は、ローム層と呼ばれる火山灰の堆積層中にあるため、古墳築造時にローム層の中から偶然掘り上げられたのではないかと考え、ナイフ形石器が出土した周辺に狙いを定めて、ローム層の発掘を行いました。季節は秋から冬へと変わっても、目指す石器は中々出てきません。そろそろ諦めようと思い始めた雪の降る寒い日、作業員さんの手先をじっと見ていると、「ガチン！」という音がして、もう 1 点のナイフ形石器が出てきました。作業員さん達と手を取り合って大喜びしましたが、実に、鳥取県内で初めて旧石器発掘調査中にナイフ形石器が出土した瞬間でした。（佐伯）



周溝発見の石器



調査出土の石器

センター・資料館日誌

- 4月 7日 永江青老会 21名、埋文センターに見学来訪。
- 4月 11日 伯楽塚遺跡・小野第2遺跡の調査が開始された。
- 4月 20日 境矢石遺跡の調査が開始された。
- 5月 1日 福市遺跡つつじ祭り、天候不順で五千石小体育館へ会場変更。
- 5月 10日 鳥取ふるさと巡りの会 21名、福市遺跡と資料館見学に来訪。小野第2遺跡の現地調査が終了した。
- 5月 15日 福市遺跡ガイドツアー開催、受講者 11名が参加した。
- 5月 26日 米子錦ライオンズクラブ、福市遺跡を清掃奉仕された。
- 5月 29日 考古学講座「旧石器・縄文時代のよなご」開催、受講者 18名。南部町の東西町五月祭に境矢石遺跡の出土品を展示出品。
- 6月 8日 日南町山上公民館 20名、福市遺跡と資料館見学に来訪。
- 6月 18日 境矢石遺跡4区、5区の現地説明会が開催された。
- 6月 22日 福市考古資料館企画展「発掘調査速報展」が開催された。
- 6月 24日 尚徳小学校3年生60名が埋蔵センターと福市考古資料館に来館し古代学習と火起こし等の体験学習を行った。

編集後記

米子市埋蔵文化財センターのたよりの第1号を発刊しました。今後も地域の古代史情報を提供しますので、お楽しみに!

行事案内

「福市考古資料館企画展」

『発掘速報展』

近年、米子市教育文化事業団が米子市及び南部町で実施した遺跡の発掘調査の成果を紹介する展覧会です。

展示している資料は、米子市の博労町遺跡、陰田第3遺跡、南部町境矢石遺跡から出土した土器や石器です。

福市考古資料館へ是非ご来館ください。

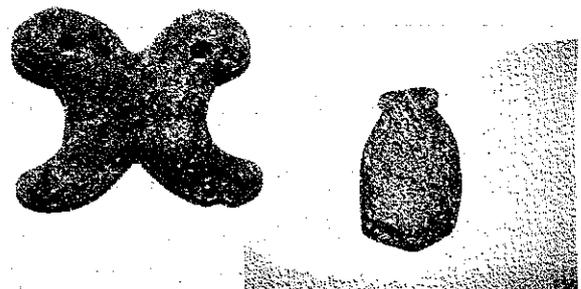
開催期間 6月22日(水)

～7月25日(月)

休館日 毎週火曜日・7月20日

開催時間 午前9時30分～午後5時

観覧料 無料



博労町遺跡の石製品

発行日 平成23年6月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

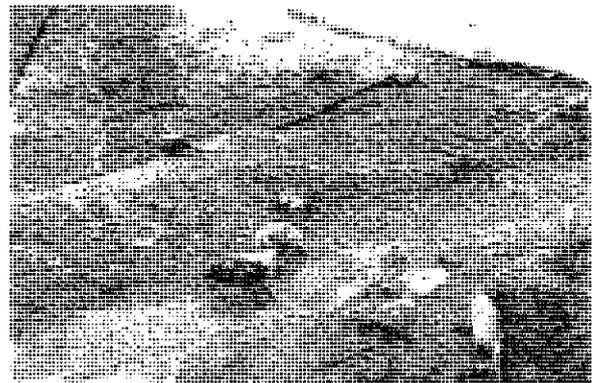
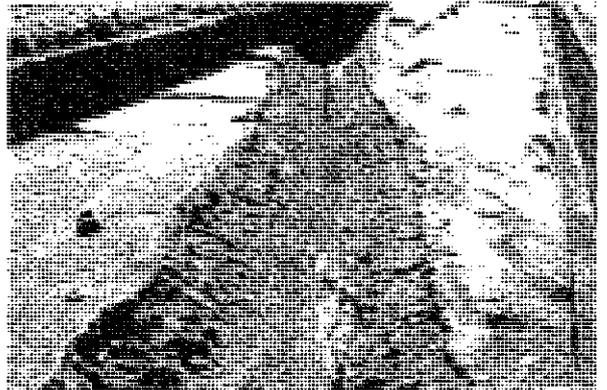
電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

目久美遺跡は、1933年の新加茂川開削時に地元の清水安造氏によって発見され、翌年に京都大の梅原末治が調査を行い、以後、山陰を代表する縄文・弥生時代の遺跡として知られてきました。

1953年には県道拡張に伴い佐々木古代文化研究室によって調査され、縄文前期～弥生中期の遺物が多数検出されました。1982年には新加茂川拡張に伴い大規模な調査が行われ、弥生中期の水田跡が検出されると共に、縄文中期の貯蔵穴群も確認されました。以後、開発に伴い数次にわたり発掘調査が実施され、目久美遺跡の姿を具体的に物語る多くの遺構・遺物が検出されました。

なかでもこの間の調査で発見された大形用水路や小水路、堰の遺構は、弥生時代の農業水利体系がかなり整備されていた事を物語っており、水利で結ばれる上流の弥生遺跡群との農業共同体関係や政治的関係を考えさせられる遺構です。(小原)



大型用水路(上)と小水路・堰(下)

コラム－縄文遺跡を掘る ①早期 ー上福万遺跡ー

1983年、中国横断自動車道岡山・米子線の工事に伴い鳥取県教育文化財団により上福万遺跡が調査されました。

縄文時代早期の集石 31 基、土坑 58 基をはじめ多数の土器・石器が検出されました。遺跡は大山西麓の佐陀川の扇状地に立地し、遠く日本海を望むことができます。

主な出土土器は、山形や楕円を刻んだ棒を転がして文様をつけた押型文土器です。復元された写真の土器は尖底で砲弾形の高さ 56 cm の大きな土器です。

今から 8 千年前に大山山麓で暮らしていた縄文人たちは、この大きな土器を囲んでどんなごちそうを食べていたのでしょうか?(小原)



センター・資料館日誌

- 7月3日 考古学講座「弥生時代のよなご」開催。受講者15名。
- 7月4日 南部中学校生徒の職場体験を受け入れた。
- 7月22日 米子市教育文化事業団連携事業体験ツアー「勾玉づくり」を埋文センターで実施した。参加者小学生23名。
- 7月25日 林業労災防止協会の刈払機取扱作業講習会を開催した。
- 7月28日 北九州市・佐藤氏 調査来訪。
- 8月1日 岡山県・米田氏が境矢石遺跡出土玉類調査で来訪された。
- 8月8日 「勾玉づくり火起こし」を尚徳なかよし学級へ出前事業する。
- 8月10日 岡山理大・白石氏陶器調査来訪。
- 8月18日 福成大坪上遺跡の調査が開始された。
- 8月24日 鳥取市万葉博物館から資料借用に来訪された。
- 8月27日 よなご88探宝会が、埋文センターと福市遺跡・資料館を見学。
- 9月2～4日 台風12号により各階で雨漏り発生。校庭南法面が一部崩落し民家へ土砂が流入した。
- 9月11日 考古学講座「古墳時代のよなご」開催。受講者15名。

編集後記

台風12号の直撃で米子市埋蔵文化財センターでは、雨漏りや旧校庭の南側の法面が崩落しましたが、甚大な被害は免れました。

秋は行事や調査も本番となり、職員は忙しくなりそうです。

行事案内

「史跡・青木遺跡ガイドツアー」

史跡青木遺跡の様子を発掘当時のスライドと出土品による解説を行った後、現地の遺跡を巡ります。

開催日 10月23日(日)

開催時間 午後1時30分～午後3時30分

参加費 資料代100円

申込方法 電話・FAXで下記まで申し込み
0859-26-0455

現地探訪「上淀の秋を楽しむ」

上淀白鳳の丘展示館や周辺遺跡の解説を聞きながら散策します。

コース 上淀白鳳の丘展示館→石馬→上淀廃寺跡→向山古墳群→白鳳の里(昼食)

途中、お茶・お菓子のサービスもあります。

開催日 10月30日(日)

開催時間 午前9時30分～午後1時00分

参加費 1,800円(昼食代・入館料含)

定員 70名 先着順

申込方法 電話・FAXで、住所・氏名・電話番号を下記まで申し込み下さい。
米子市淀江文化センター

電話0859-39-4050

FAX 0859-39-4051

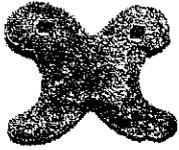
発行日 平成23年9月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp



米子市埋蔵文化財センターたより

第3号

2011年12月

はんちくじょう

版築状遺構発見、終末期古墳か! —南部町境矢石遺跡—

平成22年3月から行ってきました境矢石遺跡の発掘調査は、終盤にさしかかってきました。現在、丘陵の東側と南側の斜面部、谷部（6区）の調査を行っており、丘陵全域に弥生時代後期～古墳時代中期の集落が広がっていることが明らかとなってきました。また、古墳時代終末期の版築状遺構や横穴墓を確認するなど、新しい発見もありました。

版築状遺構 版築状遺構は6区の谷部に位置し、黄色い土と黒い土を交互に版築状に積み上げて構築しています。遺構は、調査区外にも広がっており、全体の規模は不明ですが、北東-南西長15m以上、北西-南東長17m以上、最大深さ2.8mの大規模なものです。

これだけ大量の土をどこから運んできたのでしょうか。丘陵の頂上部には、広い平坦面が存在し、調査の結果、旧地形が削られていることが判明しており、この土を用いてこの版築状遺構を構築したものと考えられます。



版築状遺構の土層断面

版築状に土を積み上げるのは、古代寺院や宮殿の基壇や古墳の墳丘にみられますが、当遺跡では寺院に関わる瓦等の遺物が出土していないため寺院跡ではなさそうです。土層断面で周溝状の溝が認められることから、古墳時代終末期につくられた山寄せの古墳であった可能性があります。遺構に伴う土器などが出土していないため、構築された時期は不明ですが、当遺構の上層から奈良時代の遺物が出土していることから、奈良時代以前のもと考えられます。大規模な版築を構築していること、南西に開く山寄せに位置的していることなどから、地域の有力な首長の古墳であった可能性があります。古墳であったとすると、残念ながら埋葬施設は失われているようです。

まだ、遺構の上部斜面で横穴墓を1基確認しており、位置的にも近接しているため、版築状遺構との関係も注目されます。

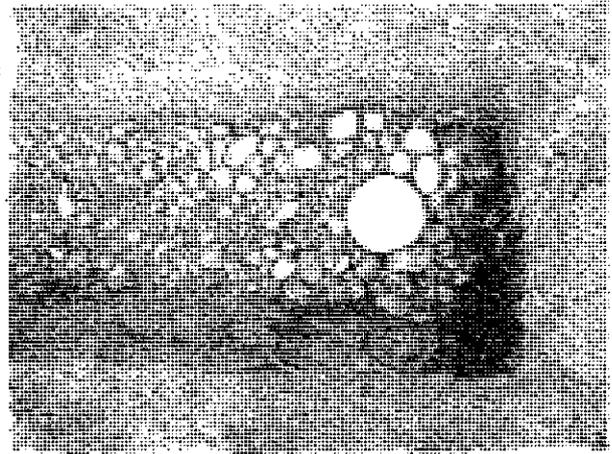
今後、版築状遺構の上部北側を調査することにしており、この遺構の全容や性格が解明出来る資料の発見を期待して調査を進めています。2年近くにおわたって行ってきました境矢石遺跡の発掘調査も来年の3月に終了する予定です。(高橋)

発掘調査情報

「北枕では無く、東枕」 - 伯楽塚遺跡^{ぼくろうづか}の古墳から -

伯楽塚遺跡の調査で6世紀頃の古墳を5基確認しました。遺跡は伯楽塚古墳群と越敷山古墳群の中間地点に位置していますが、鳥取県遺跡地図に古墳は登録されていません。

今回見つかった古墳は、標高90m前後の尾根上に位置しており、全て直径が6mほどの円墳です。墳丘盛土は、奈良時代頃に削られ無くなっていましたが古墳の周囲には石棺4基と土壙墓9基の埋葬施設がありました。大きさから土壙墓は大人の埋葬に、石棺は子供の埋葬に使われたと推測されます。また副葬品



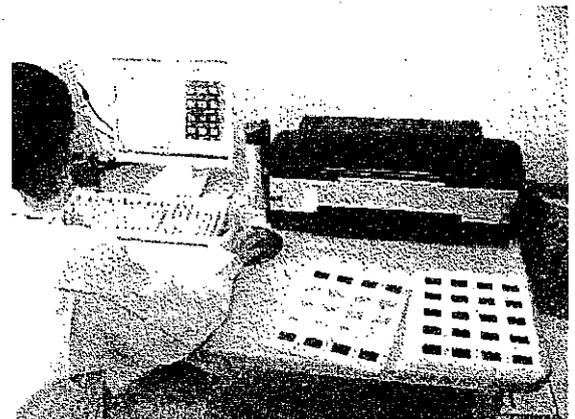
棺底小礫上の須恵器枕

はほとんど見つかりませんでした。平らな石や須恵器を枕として使った事例があり、どの方向に頭を向けて葬ったのかが判明しました。興味深いのは、本遺跡では古墳の周溝底から祭りに使われたと考えられる土器が出土し、全ての古墳で周溝の南東部に置かれていたため、祭りをを行う場所に決まりがあったことを窺わせます。また、枕の位置から死者を埋葬する時には、必ず東部に死者の頭が向くようにして葬られていたことが分かりました。今日では、葬式の際に死者を北枕にしますが、こうした風習が古墳時代にも見られたことは興味深い事例です。なぜ死者の頭が東に向いているのか、という疑問にはまだ明確な答えがありませんが、調査地の東にある大山を意識した風習があったのでしょうか。これから、東枕の謎解きに挑まなければなりません。(佐伯)

整理室たより

埋蔵文化財の資料整理を平成21年度から3年間実施してきました。内容は主に発掘調査スライドと米子関係の報告書のデジタル化、考古学関係図書の保管台帳の作成、寄贈遺物等の整理などです。

現在、デジタル化したスライドは18万カットとなり、遺跡毎にCDに焼付けファイル化してあります。米子市関係の報告書はPDF化してあります。また全国から送付された報告書は1万3千冊、学会誌や単行本などの図書類は1万7千冊が台帳登録されました。今後これら資料の保管管理と活用が課題です。(小原)

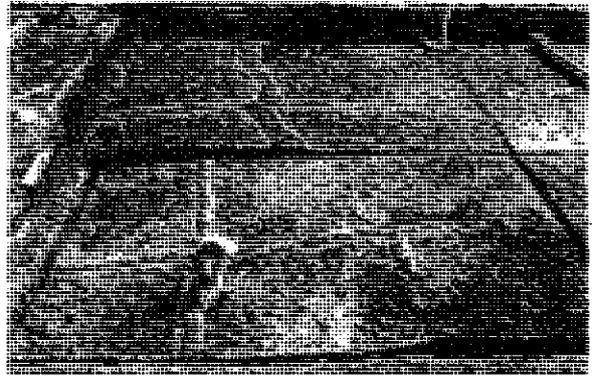


スライドのデジタル化作業

池ノ内遺跡は、米子駅の南東1kmの美吉の水田下1mに所在する遺跡で、1933年の新加茂川開削時に目久美遺跡と共に発見されました。1984年に新加茂川拡張に伴う調査によって、弥生時代中期末から古墳時代にかけての水田跡の遺構が検出されました。水田跡は小区画の水田で、洪水を受けるたびに新しい畦を造り直しており、層位の異なる弥生時代の水田跡3面と古墳時代の水田跡1面が確認されています。

また遺跡からは農具や工具、建築部材などの大量の木製品が発見されました。木製品は鋤、鋤、穂積具、えぶり、田下駄、田舟など農耕具が大半ですが、梯子、柱、杭、加工板などの建築部材や斧柄、容器片、網枠、かんざしなど多種多様なものです。

本遺跡は古代の人々が自然災害と戦いながら水田を切り開いてきた様子を物語っています。

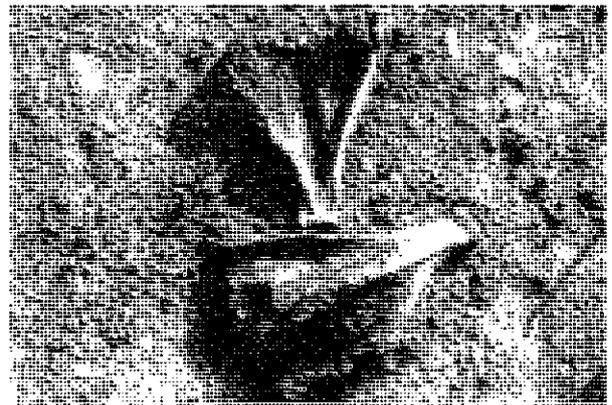


(上) 造り直された水田の畦 (下) 田船



コラム—縄文遺跡を掘る ②縄文時代前期 —陰田第9遺跡—

米子市陰田町にある低湿地遺跡で、1982年、米子バイパス工事に伴い米子市教育委員会によって調査されました。住居跡などの生活遺構は発見されなかったが、縄文前期初頭(6千年前)と晩期(2千5百年前)土器、石器のほかにも動植物遺体が発見され注目されました。遺物は地表下3mの青灰褐色砂質土層から発見された鹿や猪の獣骨と貝殻、ドングリ、クルミなどです。当時この辺りまで中海が入り込んでいたことや、どんな動物や植物を捕獲・採取していたかなどが具体的に解りました。米子の古環境や縄文時代の食生活を知ることが出来る「さきがけ的な調査」となりました。



鹿の肩甲骨出土状況

センター・資料館日誌

- 10月23日 講座「史跡青木遺跡ガイドツアー」を開催した。
- 10月25日 加茂小学校1年生が校外学習で福市遺跡にやってきた。
- 10月29日 「上淀廃寺の謎を究明せよ」シンポジウムが淀江文化センターで開催された。(共催)
- 10月30日 「上淀の秋を楽しむ」現地探訪が開催された。(共催)
- 11月3日 信金ウオークが福市遺跡を目指して開催された。
- 11月5日 講座「旧市内の石造物巡り」を開催した。
- 11月7日 奈良教育大の金原先生が種子サンプル鑑定指導に来訪された。
- 11月13日 考古学講座「奈良時代のよなご」を開催した。
- 11月15日 鳥取市万葉博物館の鎌澤学芸員が資料返却のため来館された。
- 11月17日 広島大学院生が卒論研究で石器調査に来館された。
- 11月22日 夜間に施設の昇降口ガラスが毀損された。
- 11月23日 木器研究会の方々が、木器鑑定と指導のため来館された。
- 12月8日 埋蔵文化財センターで消防訓練を実施した。
- 12月16日 手塚山大の学生が卒論研究で甗形土器調査に来館された。
- 12月19日 鳥取大学高田先生が県史編纂資料調査で来館された。
- 12月22日 埋文調査室の整理作業員研修会

行事案内

「拓本体験講座」

遺跡から出土した土器や瓦などの文様を拓本で写し採る実技体験講座を行います。

日時 1月15日(日)

午後1時30分～3時30分

場所 米子市埋蔵文化財センター

定員15名、資料代100円

申込 電話・FAXで受付中

0859-26-0455まで

■開館時間

午前9時～午後5時

■休館日

催事開催日を除く毎週土、日曜日、祝日、年末年始

編集後記

2011年も早、師走となりました。今年は東北大震災や台風など自然災害の多い年でした。センターでも台風で校庭南斜面が崩壊するなど被害がありました。

また、今年は暖かい冬の日が続くなど季節が少し変です。今冬も大雪にならないようにと祈るような気持ちです。

来年は災害のない年になりますように願っています。

発行日 平成23年12月22日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

平成 23 年度上淀白鳳の丘展示館の組織体制及び事業報告書

(平成 24 年 3 月 20 日現在)

1 組織体制

館長(非常勤)	1人	
副館長(常勤)	1人	
学芸員兼企画員(常勤)	1人	
スタッフ(非常勤)	2人	合計 5人

2 事業の実施状況

(1) 入館者数等

区分	一般	高・大学生	中学生以下	合計
人数	8,079人	53人	884人	9,016人

(2) 自主事業

事業名	実施状況	実施時期
伯耆古代の丘ゆめ祭(ゆめ温泉、古代の丘公園共催事業)	(株)白鳳の単独事業としての『伯耆古代の丘ゆめ祭』実施はできなかったが、淀江サイクリング・カーニバルと連携して、古代の丘公園・ゆめ温泉・上淀白鳳の丘展示館も一体となって取り組み、このエリアのPRと魅力アップに努めた。 入館者=45人	9月
妻木晩田遺跡連携事業	妻木晩田遺跡連携事業として、妻木晩田遺跡活用実行委員会が行う秋の秋麗祭・古代ロマンウォークにあわせて展示館の入館サービスや館内ガイドを行った。 入館者=134人	9月
伯耆古代の丘シンポジウム	『上淀廃寺の謎を究明せよ』をテーマに、シンポジウム・コンサート・エクスカージョンを米子市・(財)教育文化事業団と共催で実施 参加者=シンポジウム(320人)、コンサート(156人)、エクスカージョン(46人)	10月
伯耆古代の丘情報発信事業	ゆめ温泉のホームページに上淀白鳳の丘展示館のコーナーを設けた他、独自の館内パンフレット、ポスター等により情報発信するとともに、市報をはじめ様々な機関誌や旅行関連雑誌に掲載し、広報活動を行った。	随時
史跡探訪ウォークの実施	入館者及びこのエリアへの来訪者の要望に応じ、周辺史跡(向山古墳群、石馬、上淀廃寺跡)のガイドを積極的に行った。 ・周辺史跡案内=116回 1,139人	随時
史跡ガイドの養成講座の実施	今月28日に妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会と共催で、両史跡にまたがる第1回目のガイド養成講座を実施予定	実施予定
上淀廃寺マンガパネル展(新規)	上淀廃寺の復元完成記念に合わせて、3月17日から展示館ロビーにおいて上淀廃寺の魅力と謎をテーマにしたマンガパネル展を実施中	実施中

平成 24 年度上淀白鳳の丘展示館の組織体制及び事業計画

1 組織体制

館長（非常勤）	1人	
副館長（常勤）	1人	
学芸員兼企画員（常勤）	1人	
スタッフ（非常勤）	2人	合計 5人

2 事業計画

(1) 基本方針

指定管理業務の2年目になり、前年度の実績等を踏まえ、引き続き施設の円滑な管理運営を図るとともに、ソフト事業の積極的な実施及び広報活動の充実に重点をおいた事業展開を目指すこととします。

(2) 自主事業

事業名	目的・内容	実施時期
よどえ古代まつり(仮称)	上淀白鳳の丘展示館1周年記念事業として、米子市・ゆめ温泉、どんぐり館、伯耆古代の丘公園などと共に、この地域の新たな魅力を引き出していくための地域イベントを実施するもの	5月
妻木晩田遺跡連携事業	妻木晩田遺跡連携事業として、春の新緑祭と秋の秋麗祭・古代ロマンウォークにあわせて展示館の入館サービスや館内ガイドを行うもの また、妻木・晩田遺跡公園と連携した広報活動の強化に取り組むもの	4月 9月
上淀白鳳の丘展示館ミニ企画展	上淀白鳳の丘展示館のロビーで上淀廃寺に係る周辺遺跡の紹介を含めた、ミニ企画展を実施するもの	年3回
伯耆古代の丘情報発信事業	前年度に引き続き、広報活動の充実に図るために、ホームページの内容の見直し、新たな展示館パンフレットの作成等を行うほか、様々な機会をとらえて旅行関連雑誌等への情報提供に努めるもの	随時
周辺史跡ガイドの実施	前年度に引き続き、入館者及びこのエリアへの来訪者の要望に応じ、展示館ガイドに合わせて周辺史跡（向山古墳群、石馬、上淀廃寺跡）のガイドを積極的行うもの	随時
史跡ガイドの養成講座の実施	歴史館友の会をはじめとする関係団体との連携を図りながら、展示館をはじめ周辺史跡のガイド養成に取り組むもの	随時
淀江エリア魅力アップ事業(新規)	上記に掲げる事業のほか、上淀廃寺などの史跡を活用して、史跡関連施設や周辺観光施設との連携によって、淀江エリアの魅力アップを図るための事業を実施するもの	随時